

主の召しに応えた人たち

(マタイ4・18～22)

一、行間を読む

18節より20節をご覧ください。ヘイエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った。とあります。教会にとつて聖書は特別な書なので、特に不思議は感じられないかも知れませんが、これを、だれかが書いた小説の文章と思って読んでみたらいかがでしょうか。「え？」と思うのではないのでしょうか。シモンとアンデレはガリラヤ湖の漁師でした。シモンとアンデレは、この出来事よりも前に、イエスをメシア(キリスト)と信じていました。ヨハネの福音書1章に書かれています。ですが、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」と主イエスが言われ、彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った」という件は、行間を読みたくなくなるどころです。これとほぼ同じパターンが、否、もっと強烈なことが、21節、22節に書かれています。ヤコブとヨハネの場合は、そ

こに父ゼベダイがいました。父ゼベダイにとつて二人は、自分の後を継いでくれる期待の息子たちでした。ところが、イエスとか云う男が現れて、二人の息子に「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」と、同じことを言われたのでありましょう。すると二人は、すぐに舟と父親を残してイエスに従ったのであります。「舟を残す」とは、その仕事を辞めることです。「父親を残す」とは、家を捨てることです。当時としては、考えられないことでした。ひいき目に見て、ゼベダイは度量が大きかったのだと思われれます。それにしても、父親は心が痛んだことでありましょう。ヤコブとヨハネもそれしょう。シモン・ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネに共通することは、主イエスから「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」と語られ、すぐに従ったことです。ですが、やはりもう少し行間を読みたくなくなるころです。私の推測は——と言いますが、勝手な推測ではありませんが——、シモン・ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネは、いつでも出家して「主イエスに従おう」と覚悟を決めていたものと考えます。主イエスから「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」と語られ、すぐに従ったからには、そのような状態になっていたと考えるほう

が、合点がいきます。

二、献身を決意した出来事

さて、ルカの福音書5章に、並行箇所とおぼしき箇所があります。主イエスはシモン・ペテロの舟に乗り、陸から少し離れた場所に移動させ、群衆に教え始められました。話が終わると、シモンに言われました。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい」と。シモンは答えました。「先生、私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことはですので、網を下ろしてみましよう」と。こうして、深みに漕ぎ出して網を下ろすと、おびただしい数の魚が入り、網が破れそうになりました。そこで、仲間の者たちに加勢するように頼み、魚を二艘の舟いっぱい引き上げたところ、両方とも沈みそうになりました。その時のことです。次のように記されています。ルカ5・8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間ですから。」と。ペテロの主イエスに語った言葉が、「先生」から「主よ」に変わった言葉が、ペテロは、主イエスに神聖なものを見たのでありましよう。そして、その後です。こう書かれています。ルカ5・10～11 シモンの仲間の、ゼベダイの子ヤコブやヨハネも同じであった。イエスはシモンに言われた。「恐

れることはない。今から後、あなたは人間を捕るようになるのです。」彼らは舟を陸に着けると、すべてを捨ててイエスに従った。」と。

ルカの福音書5章とマタイの福音書4章では、かなり状況が異なりますが、これを並行箇所として受け取りますと、シモン・ペテロとアンデレが、そしてヤコブとヨハネが、主イエスから「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」と言われ、彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った」出来事に、合点がいくような気がします。

三、神の召しに応える

人生は、人それぞれです。ですが、どなたも一回だけの人生です。聖書の価値観によれば、人は皆死にます。その際たましいも死にます。ですがよみがえって、一人ひとりが創造主なる神の前に立ち、どのような人生を過ごしたかについて責任を問われます。主イエス・キリストは、私たちが神の御意思に適合しないで生きてきた人生の責めを、私たちが負わなくて良いようにと、二千年前に十字架で贖いの死を遂げてくださいました。信じる者はさばかれることなく、神の救いに与ります。神は一人ひとりに良い御計画をお持ちです。なぜなら神は、私たちの霊の父だからです。神の召しに覚えてください。